

花子さんと太郎君は、社会科の授業で、1853年にアメリカのペリーが日本に来航したことがきっかけで鎖国が終わり、その後、外国との貿易が始まったことを学習しました。そのことについてさらにくわしく調べたいと思って、図書館で勉強しているところです。

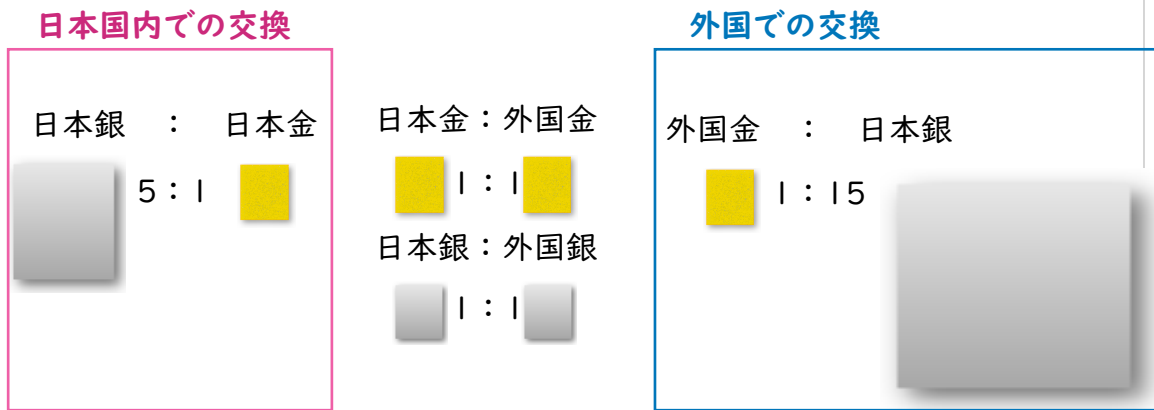
太郎：幕末の頃には、外国との貿易が始まったことでかえって日本にとって悪い影響も出ていて、「日本の金が大量に国外に流出した」と先生が言ってたよね。

花子：どうして日本の金が大量に国外に流出したのかしら。

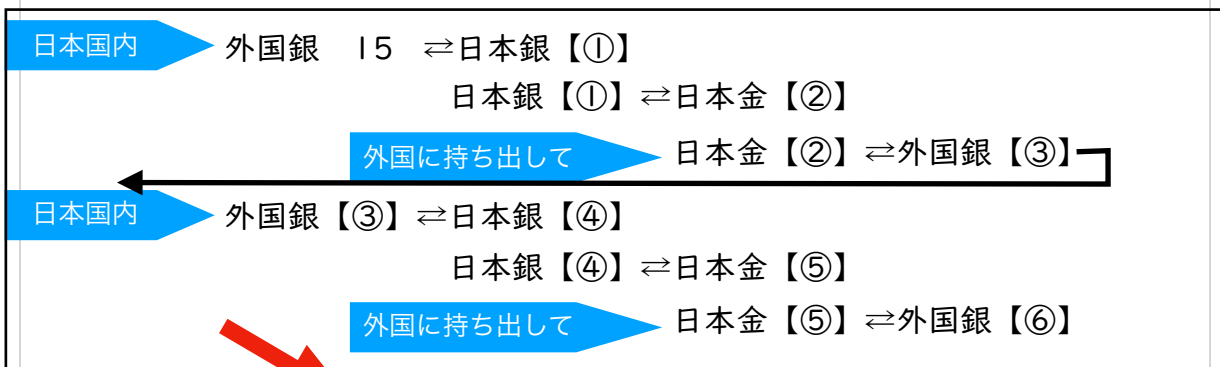
太郎：本や資料があるから、調べてノートにまとめてみようよ。

資料1 太郎君のまとめたノート

1 日本国内と国外での、金と銀の交換比率（1859年）



2 外国商人が利益を得た方法 ※最初に外国銀が15あったとする場合の例



この繰り返しによって、大量の日本の金が国外に流出した

3 幕府のとした対応（1860年）

国内の金貨（小判）が不足してきたため、幕府は、それまでの「安政小判」に比べて金を含む量を「【 ⑦ 】分の1に減らした、質の悪い「万延小判」をつくって対応した。

〔問題1〕

資料1の図や説明を元に、資料1の中の①～⑦にあてはまる数を答えなさい。

〔問題1〕 ①	〔問題1〕 ②	〔問題1〕 ③
〔問題1〕 ④	〔問題1〕 ⑤	〔問題1〕 ⑥
〔問題1〕 ⑦		

解答

〔問題1〕

日本と外国で銀どうし、金どうしを交換する場合、交換比率が1:1なのに対し、日本では金1に対して銀が5、外国では金1に対して銀が15と交換比率が異なるために、日本から金が流出したことを示します。

まず①は外国銀15に対する日本銀なので15です。

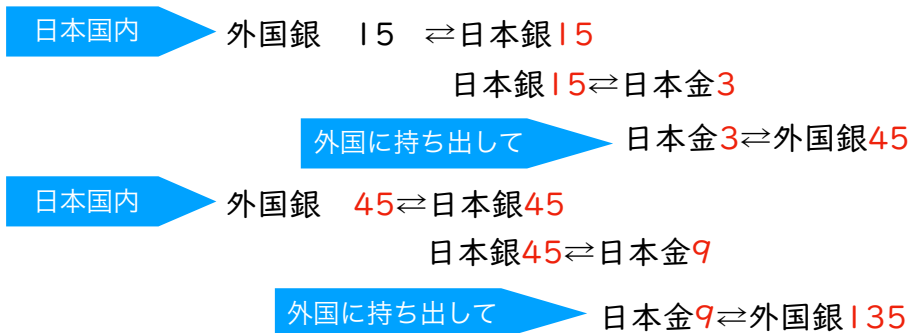
②は日本銀15を日本金に交換するので、 $15 \div 5 = 3$ となります。

③は日本金を外国銀と交換するので、 $3 \times 15 = 45$ になります。

④からは①～③と同じ流れを、外国銀45から始めます。まず④で日本銀45に交換します。

⑤で日本銀45が日本金 $45 \div 5 = 9$ になります。

⑥で日本金9は外国銀 $9 \times 15 = 135$ になります。



これは日本では金の価値が、海外に比べ $5:15=1:3$ であったことが原因なので、国内に流通する小判の金の量を3分の1にすることで対応したと考えられます。

〔問題1〕 ① 15	〔問題1〕 ② 3	〔問題1〕 ③ 45
〔問題1〕 ④ 45	〔問題1〕 ⑤ 9	〔問題1〕 ⑥ 135
〔問題1〕 ⑦ 3		